

天王の森 平家の森

国道195号線を東に向い、香美市物部町に入る白杉トンネルを抜けると右前方にまるむatterホルンのように尖った山の姿がひとまわりと惹きつけて、永瀬ダム湖の南側に聳えている。
平家の森とも呼ばれるが、物部では「天王」と呼ばれ親しまれている。安徳天皇四國潛幸説にまつわる平家伝説も色濃く急峻な断崖に囲まれた難攻不落の自然の要塞にも見えてくる。
また「天王」や「熊押」などの集落跡が点在する、古からの歴史を留める魅力的な山域である。

影仙頭集落開拓の始祖は一人の山伏であった。
名は小松八郎。言賀政生まれでこの地に巡り来て、生涯をこの地に投じた。
後に聖神として祭られていたが、昭和28年頃、紀州大山峰山に帰るが、氏子は今も護られているという。
(仙頭大橋 石碑あり)

影仙頭の段々畑の集落からは安徳天皇の御後があると伝わる高板山や神龜平家に縁の深い御在所山がよく見える。長い間子孫が祈りを捧げている神聖な山にも思える。

No.123
2022
6.21 夏至



神社や地蔵様がたくさん祀られている。山の神様、水神様、八百ろのおうけさま。最近まわりはオレサマばかりいざなを流し、ホスターの山や川、自然そのものが神である。物部の人々の暮らしや仕事、山や川など自然環境と密接に結びついていた証し。

平家盛から11代目の善住といふのが光明寺の住職になる。善住は平家の正統な家柄もすぐれた人望も厚く、重当職を命じられ、代々小松姓を名乗った。

仙頭に生まれた娘は手まりを光明寺に奉納する風習があった。仙頭の里人はお寺を中心にしていざなかに暮らしていたという。

人の歴史は地域の歴史。地域の歴史も人の歴史。ともに大切にしていきたい。

平家盛、維盛は平家盛の孫にあたる。維盛は山の内にいる平家の岩屋近くに長く酒飲していたといわれる。維盛の墓は野竹にある。

1185年(寿永4年)壇浦の戦いに敗れた平家は、平家盛の妻・二位尼が幼い安徳天皇を抱いて海に入り、御年八歳で短い一生を終わられたと正史が伝えているが、秘かに海を渡る山道づたいに四國へ潜幸、阿波〜土佐の山々を天皇一行が遍歴したとされる。

同土國境を越え、この物部の高板山赤牛に仮御所を造営してしばしの平家も享受されたが、この地で崩御され秘かに祭られているとも伝わる。安徳天皇御陵伝説は東祖谷の栗枝渡、越智の横倉山と四國には三箇所ある。三人の天皇がいたわけではなく、源氏の追手を攪乱するため、影入天皇を立て別行動をとっていたという説があり、影入天皇が一時期居留されたのではないかという地がこの天王の森(平家の森)である。影入天皇一行は大山山西方の熊押に定着し、天王の森(王の土地)という地名をつけて、安徳天皇本隊から源氏の目を引きつけていたという。細川幹治(安徳)が源氏を

山頂西側には大きな石造りの須賀神社がある。山頂には石の祠がある。須賀神社の祭神の一つに廣利王(八幡)がある。キリシタンが「天王」と呼ぶところから、或は安徳天皇に隠れかけた天王の森といふようになったのかもしれない。地元の人々が天王には十字架をたてたとも伝えている。土佐では幡の一本兼定に次いで第二の宗門者であった明石掃部堂全が並生野の庄谷相に於て隠れ住んでおられたことから元和の時代、この地に切支丹宗徒がいたとも思われる。明石掃部が、この山に天主キリストを祭ったことも考えられる。(物部村史より)

山中には先人が営々と築いた石垣が人知れず、ツギツギ植木にのみこまれている

国道195号 白杉トンネルを抜け物部に入ると目の前にそびえる天王の森

昭和20年代中頃に熊押から江坂小学校まで見通す道があった

三叉路にモミの木の株「天王山熊押しより地蔵大権現様木供養」神社

昭和30年頃には熊押から人が通った

大平山 817m

763m

影仙頭 林道 佐賀野線

一面の袖畑 石垣の段々畑 みごとな景観

仙頭は昔、小田々村であった

カンバ平

1185年(寿永4年)壇浦の戦いに敗れた平家は、平家盛の妻・二位尼が幼い安徳天皇を抱いて海に入り、御年八歳で短い一生を終わられたと正史が伝えているが、秘かに海を渡る山道づたいに四國へ潜幸、阿波〜土佐の山々を天皇一行が遍歴したとされる。

同土國境を越え、この物部の高板山赤牛に仮御所を造営してしばしの平家も享受されたが、この地で崩御され秘かに祭られているとも伝わる。安徳天皇御陵伝説は東祖谷の栗枝渡、越智の横倉山と四國には三箇所ある。

三人の天皇がいたわけではなく、源氏の追手を攪乱するため、影入天皇を立て別行動をとっていたという説があり、影入天皇が一時期居留されたのではないかという地がこの天王の森(平家の森)である。

影入天皇一行は大山山西方の熊押に定着し、天王の森(王の土地)という地名をつけて、安徳天皇本隊から源氏の目を引きつけていたという。細川幹治(安徳)が源氏を

影入天皇一行は大山山西方の熊押に定着し、天王の森(王の土地)という地名をつけて、安徳天皇本隊から源氏の目を引きつけていたという。細川幹治(安徳)が源氏を